
【1】科学コンクールについて【2】情報オリンピックについて

【1】科学コンクールについて

○「日本学生科学賞」 UR: <https://event.yomiuri.co.jp/jssa/>

1957年にスタートした日本学生科学賞は、読売新聞社が半世紀を超えて主催してきた日本で最も伝統のある科学コンクールです。物理、化学、生物、地学、広領域（複数の分野にわたる研究など）の5つの分野は都道府県ごとに募集。地方審査を通過し、都道府県代表に選ばれた作品が中央審査に進みます。情報・技術、応用数学分野は地方審査を行わず、中央一括審査の形で応募を受け付けます。高校生が中央最終審査で上位入賞すると、ISEF（国際学生科学技術フェア）へ出場できるチャンスがあります。

令和7年度地方審査（千葉県児童生徒・教職員科学作品展）の出品受付は9月25日（木）です。実施要項等は下記のURLをご覧ください。

<https://www.ice.or.jp/nc/sien/sakuhin>

○「高校生・高専生科学技術チャレンジ（JSEC=Japan Science & Engineering Challenge）」

JSEC（Japan Science & Engineering Challenge）は、全国の高校生と、高等専門学校生を対象に、朝日新聞社が2003年に始めた科学技術の自由研究コンテストです。中等教育における理科教育の向上に貢献することで我が国の科学技術水準向上を目指し、また、自発的に考えて課題を解決する力を、若い世代に身につけてもらうことを目的としています。対象となる研究分野は、伝統的な「理科」の範囲に加え、ロボット工学、数学、行動・社会科学などもあり、多岐にわたります。都道府県ごとの地方審査はなく、全国から直接応募できます。国際競争力のある人材を育成するために、上位入賞者を国際大会ISEFに派遣し、世界に視野を広げた活躍を促進しています。

JSEC2025の応募期間は8月30日（土）から9月29日（月）まで。最終審査会は12月13日（土）・14日（日）に実施します。応募方法等の詳細は、以下のURLをご覧ください。

<https://manabu.asahi.com/jsec/2025/regulation2025.pdf>

○「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」

研究論文テーマ：高等学校における課題研究、自由研究、その他をまとめたもの

理科（物理・化学・生物・地学）、数学、情報など自然科学に関連する調査および研究（A4版10ページ以内）

「論文応募票」の提出期限	2025年 7月31日（木）	学校経由
論文の提出期限	2025年 8月31日（日）	必着
審査結果通知	2025年 9月30日（火）	発送
受賞者の発表会	2025年 11月9日（日）	東京理科大学神楽坂キャンパス

応募方法や応募上の留意点等は以下の URL をご覧ください。

URL : <https://risoukai.com/activity/botchan-science-award/>

【2】情報オリンピックについて

「第25回日本情報オリンピック(JOI 2025/2026)」が下記の日程で行われます。

- ・高等学校3年相当以下の人も参加できます。ただし、セミファイナルに進出できるのは、高等学校2年相当以下の人のみです。

参加申込：

(JOI一次予選・二次予選の参加料：無料・セミファイナルステージ以降の参加料：5000円)

1回目受付期間：2025年07月01日(火)12:00～2024年09月11日(木)15:00

2回目受付期間：2025年09月15日(月)12:00～2024年10月09日(木)15:00

3回目受付期間：2025年10月13日(月)12:00～2024年11月13日(木)15:00

※一度参加申込すればそれ以降の一次予選すべてに参加できます

JOI一次予選(第1回)：2025年09月13日(土)14:00～15:20

JOI一次予選(第2回)：2025年10月12日(日)14:00～15:20

JOI一次予選(第3回)：2025年11月15日(土)14:00～15:20

JOI二次予選：2025年12月07日(日)13:00～16:00

JOIセミファイナルステージ：2026年01月25日(日)・02月01日(日)

JOIファイナルステージ：2026年03月20日(金)～03月24日(火)

「日本情報オリンピック第6回女性部門(JOIG 2025/2026)」について

ステップ1 (JOI一次予選と共通)

ステップ2 (JOI二次予選と共通)

ステップ3 (JOIセミファイナルステージと共通)

ステップ4 JOIGファイナルステージ：2026年3月20日(金)～3月24日(火)

情報オリンピックに関する詳細、申込みは右記 URL をご覧ください。 <https://www.ioi-jp.org/>

【編集後記】

著名人の訃報を聞くときに、よく「1つの時代が終わった」というフレーズが使われる。人に依ってその感想は大きく変わるだろうが、私は6月3日長嶋茂雄さんのご逝去を知ったときに、このフレーズがすぐ浮かんだ。父が巨人ファンであったこともあって(選手だった頃の長嶋さんを実際に見た記憶はないが)、監督時代の長嶋さんをずっと見ていた。改めてご冥福をお祈りいたします。

Sports Graphic Number Webの記事に、長嶋さんはヤマカンで打つとか、何も考えないで打った天才のように言われていたが、実は正確な記憶力と鋭い洞察力による予測によって打った天才だと記されていた。興味のある方は以下の記事を。

<https://number.bunshun.jp/articles/-/866122>

さて、私の日常の楽しみはドジャースの大谷翔平選手の活躍の鑑賞、及び将棋の藤井聡太7冠の対局鑑賞である。MLBも将棋も近年ネットで楽しむことができるようになったのはありがたい。

アメリカのスポーツ界において野球の人気は衰えてきていたが、大谷選手の人気(集客力)と、ルール改正による試合スピードアップ等によって盛り返してきたとも言われている。将棋については2016年に大きな騒動があり、将棋人気は衰えかねなかったが、同年に藤井聡太さんが中学2年生で将棋のプロ棋士になり、無敗で29連勝という連勝記録を作って藤井フィーバーが起こった。

それと時期を同じくして、ネットによる対局中継が増えた。また、将棋AIによる形勢判断の可視化とネット中継中の様々な工夫によって「見る将」と呼ばれる新しいファンを獲得した。現在野球界にとっては大谷翔平選手が、将棋界にとっては藤井聡太7冠が人気を牽引するヒーローとして活躍している。

ヒーローにはライバルが必要不可欠だが、MLBではアロン・ジャッジ選手がとてつもない成績をあげている。ヤンキースとドジャースは昨年のワールドシリーズで対戦しており、今年度もそれぞれの地区で高い勝率をあげている。2年続けてのワールドシリーズ対決になるかどうかは神のみぞ知るところだが、大谷選手の活躍と共に注目している。またMLBにはメッツの千賀滉大選手、カブスの今永昇太選手、パドレスのダルビッシュ有投手と松井祐樹投手、オリオールズの菅野智之投手等、日本人の投手が多く在籍しており、大谷選手との対戦も楽しみである（故障中の選手もいるが）。

藤井聡太7冠はタイトル8つのうち7つを保持しており、今年はずでに王将・棋王・名人のタイトルを防衛している。通算成績も8割3分弱と他の棋士を圧倒しており、向かうところ敵なしのようにも見えるが、6月に藤井7冠と同年の伊藤匠叡王が残る1つのタイトル（叡王）を防衛した（挑戦者は斎藤慎太郎八段）。そして棋王戦・名人戦の挑戦者として敗れるも7月から始まった王位戦でも挑戦者となった永瀬拓矢九段は藤井7冠の練習パートナーとしてお互いに切磋琢磨している。この2人をはじめ、ライバルといえる棋士、ライバルになりそうな棋士は少なくない。

3月の東京ドームで行われたMLB開幕戦はすべての抽選で外れたし、将棋の公開対局の抽選も当たったことがないのだが、活躍しているこのヒーローたちの試合を彼らが全盛期のうちにぜひ直接見に行きたいものだ。

これからますます暑くなるので体調を崩しやすくなる時期ではあるが、高校の先生方にはお体を労り、仕事も余暇も充実できる夏になることを願うばかりである。（金）